ゆもと通信

大田区議会議員(5期目) 大田区へ政策提言

第25号 2024年5月1日発行 大田区 地元の『ゆもと』

学校改革編



大田区子ども関連予算 UPを提案し続け、実現。 未来志向の政治へ!!

ゆもと良太郎 プロフィール

昭和51(1976)年5月10日

大田区大森生まれ。

大森幼稚園/大森第五小/日大三中三校/明治大学商学部。

平成15(2003)年

大田区議会議員選挙26歳で66候補者中3位新人1位で初出馬初当選。

令和5(2023)年

大田区選挙にて5期目当選。

令和4年・5年 会派幹事長

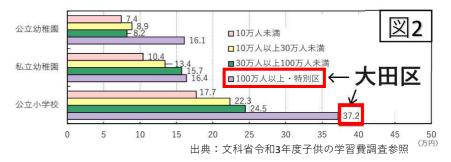
『学校にいけば勉強がわかる』

そんな大田区の学校をつくりたい

公立小学校に通うこどもの 1年間の補助学習費は平均約 12万円、最も費用がかかる6 年生は19.7万円(図1文科省令 和3年度子供の学習費調査参 照) これは全国平均値です。 図2を見ると人口規模の多 い大田区は特別区になります



1年 2年 3年 4年 5年 6年 出典:文科省令和3年度子供の学習費調査参照 ので学校外活動費平均24.8万円(年間)に対し、約1.5倍の 37.2万円(年間)保護者が費用をかけていることがわかります。



なぜ多くの時間を過ごす学校で勉強が理解できる様にならないのか?塾に通わなくても学校で勉強ができる様にならないのか?と考える保護者も多いのではないでしょうか。

まず学校で学び、塾で更に学ぶので勉強の理解が進む、つまり学校は基礎的なことを教えてくれている、という意見もありますが、よりわかりやすい授業が大田区立小学校で実現できれば、『塾に通わなくても勉強ができる』学校を実現できるかもしれません。学校で学習の理解が進めば、塾に割いていた時間や費用を勉強以外に使うことも可能です。そこで、勉強がわかる学校を目指すという視点で教科担任制について考えてみます。

◎教科担任制とは?

・教員が特定の教科を教えることです、中学校では数学や英語など教員が特定の教科を受け持っています。大田区立小学校では多くの学校で、一人の教員が一学級の音楽・図工を除く 全教科を教えています。

◎教科担任制にするメリットは?

・教員一人が自分の受け持つクラスを教える場合、授業の機会は1 回だけですが、授業の準備は全教科(音楽・図工を除く)行わなければならないのが現状です。

教科担任制にすると、仮に1学年が3クラスあるとすると、同じ教科の授業を3回行うことになります。授業の準備も受け持つ教科のみです。授業を行う機会は、比較をすると3倍に増え、授業経験も3倍に増します。また受け持つ教科のみ授業準備をすれば良いので、授業準備により時間をかけることもできます。

- ・教員1人が1学級の授業を受け持つと、主に担任が受け持つ学級の児童と大きく関わります。一方で、教科担任制にすると教科数と同人数の教員が1学級の子どもと関わることになります。関わる教員の人数が増えることにより、より客観的で幅広い児童との人間関係を作ることが可能です。また、仮に担任と児童の相性が悪くても他の教員がフォローできる体制も作れます。担任対児童の人間関係で良い関係が築けない場合のリスクヘッジをしやすい環境づくりが可能となります。
- ・小学校から中学校への環境変化を減らせる(中1ギャップ解消)
- ・教員の業務を軽減できる(働き方改革) など

◎課題はないのか?

- ・時間割の編成・調整が難しくなる
- ・教科の枠を超えた学びが難しくなる
- ・教員の数を増やさなければならない(人材確保と財政負担) など課題とされています。

○令和5年予算特別委員会で 教科担任制の導入について取り上げました。

- Q 大田区立小学校では東京都教育委員会の指定校である 池上小・入一小で教科担任制に近い取組を行っているが、 成果と課題を伺う。
- A 教員にとって教える教科が減るので専門的な内容を深く指導できた。児童アンケートでは「学習内容がよく分かる」という回答が増えた。課題は時間割調整と経験の浅い教員が限られた教科しか専門性を高められない。

Q教科担任制を大田区立小学校でより広めてはどうか?

A推進校の実践から得た成果と課題を普及・還元し実施校を増 やしていく。

> より良い教育環境の 実現に向けて提言を 続けていきます。

区政に対するみなさまのご意見をおきかせ下さい!

大田区議会議員 ゆもと良太郎事務所

TEL.03-3765-1464

https://yumoryo-otacity.jp/info@yumoryo-otacity.jp











